

翻訳 性教育へのアプローチ（その1）

— C. A. Darling, D. Cassidy, L. Powell 著

『*Family Life Education: Working with Families
across the Lifespan*』第9章の翻訳—

倉 元 綾 子

C. A. Darling, D. Cassidy, and L. Powell;

Family Life Education: Working with

Families across the Lifespan; Chapter 9;

Approaches to Sexuality Education;

Part 1 (Japanese Translation)

Ayako Kuramoto

はしがき

本翻訳は、故レイン・パウエル博士（Lane Powell, テキサス工科大学・元教授）の協力のもとで、キャロル・A・ダーリン博士（Carol A. Darling, 2001年～2003年米国家族関係学会〈NCFR〉会長、フロリダ州立大学名誉教授、第2版13章執筆者）とドーン・キャシディ氏（Dawn Cassidy, NCFR教育ディレクターで本書初版と第2版の執筆者）によって執筆された *Family Life Education: Working with Families across the Lifespan*（第3版）（Waveland Press, 2014）の第9章 *Approaches to Sexuality Education* の前半部分の翻訳である。著者3人はいずれも家族生活教育に長い間、貢献してきた。第9章は日本における性教育の進展の違いを考慮し、同書の翻訳『家族生活教育：人の一生と家族』（第3版）では割愛した。しかしながら、日本における性教育の今後を示唆するものが多いこと、および長く性教育に関する研究に携わってきた著者のひと

りキャロル・A・ダーリン博士による章であることから、本論集においてその前半部分（第5節まで）を翻訳し紹介することとした。後半部分と文献、解説については次の機会を待ちたい。

本章の構成は、次のとおりである。

第9章 性教育へのアプローチ

第1節 定義に関する課題

第2節 思春期の若者のセクシュアリティと性教育

第3節 学校における性教育へのアプローチ

禁欲のみプログラム

結婚まで禁欲のみプログラム

禁欲に基づくプログラムと禁欲プラスプログラム

包括的性教育プログラム

プログラムの有効性

性教育に関するよく知られている論争

第4節 セクシュアリティ・モデル：性教育の内容を組織化する

時間をかけた発達

認識プロセス

心理学的プロセス

生理学的プロセス

ジェンダー

文化的影響

モデルの適用

第5節 性教育の学習戦略

安全な環境づくり

価値観の明確化

拒否するスキル

第6節 性教育者

セクシュアリティを教えるための訓練

自分を知ること

個人の特徴

第7節 人間の性を教えるという課題

第8節 人間の性を教える喜び

要約

討論課題

活動

ウェブ資源

参考文献

索引

また、提示されている図と Box は次のとおりである。

図 9.1 セクシュアリティ・モデル

Box 9.1 包括的性教育の価値

Box 9.2 仮想学区教育委員会ディベート活動

Box 9.3 セクシュアリティの歴史における重大なできごとに関する年表

Box 9.4 恋愛関係における価値観の違い

なお、文中の〔 〕は訳者による注である。また、翻訳中の解釈や用語等に不十分な点があるかもしれない。ご教示いただきたい。

第9章 性教育へのアプローチ

第1節 定義に関する課題

性教育は、セクシュアリティに関する情報を取得し、態度・考え方・価値観を形成する生涯にわたるプロセスである（SIECUS, n. d. b）。過去には「性

〔sex〕教育〕という用語の意味はあいまいだった。なぜなら、「性 (sex)」は、性的行動、生殖、あるいは男性／女性であることをあらわすために使われたからである。それは全て状況に依存する。すなわち、調査のなかで、性 (sex) を尋ねる人口学的質問に出くわすかもしれないが、実際のところ、研究者は、男性か女性かを知りたいと考えている。現在、生物学的に決定された性的解剖学を意味するために「性 (sex)」を使うことが、より一般になっている。一方、「ジェンダー」は社会的文化的な経験に基づいて自分自身について、学ぶか構築された男性あるいは女性を表す。

ほとんどの教育者が、「性 (sex) 教育」よりむしろ、用語「性 (セクシュアリティ, sexuality) 教育〔以下、セクシュアリティ教育を性教育と表す〕」を使用する。なぜなら、それは、人が別の人と性的に行動することよりも広義の用語だからである。それには、個人の性的な知識、考え方、態度、価値、喜び、行動が含まれる。セクシュアリティは、セックスするか、または性的行動をすることではなく、身体に関して持っている感情；男性、または女性であること；魅力を感じ、愛している人々；装い、移動し、話し、行動する方法である。何者か、どのように生きているか、自分のセクシュアリティをどのように表現するかということに関する、自然で健康的な部分であり、年齢や人生段階によって変化するだろう (SIECUS, n.d.c)。全米家族関係学会 (National Council on Family Relations, NCFR) の家族生活教育の枠組み (付録 A 参照)〔ダーリン、キャシディ著、倉元、黒川監訳『家族生活教育：人の一生と家族』(第3版)、2019〕によれば、「人間のセクシュアリティ」は「健康な性的調整を達成する。生涯にわたって性的発達の生理学的、心理学的、社会的側面の理解のことであり、その結果、健康な性的調整を達成すること」と定義される (Darling & Howard, 2009, p. 142)。

性教育に関する定義に関する別の課題は、学校での性教育が増加した 1960 年代の社会的論争から発展した。人間のセクシュアリティは家族生活教育の 10 の内容領域のひとつで、以前は、何らかの政治的安全を確保するために、用語「家族生活と性教育」を使い、家族のコンテクストに入れ込むことによって、性教育の授業が持つ真の焦点を隠そうとする教育者や管理者がいた。その

結果、用語「家族生活教育」が学校で教えられていることに反対するいくつかのグループから見れば性 (sex) 教育と同義になった (Darling, 1987)。そこで、学校は「家族生活教育」を止めて、「親教育」と呼んだ。「親教育」には人間のセクシュアリティの要素が含まれていたが、子育ての用語に含まれることで政治的グループからの警告を引き起こさなかったので、反対は少なかった。時間的文化的変化をつうじて、この論争はなくなり、性教育の授業は現実の内容を描写するものに分類されるようになった。しかしながら、性教育の授業が教えるべき「方法」に関する論争は米国の教育文化の一部であり続けている。

第2節 思春期の若者のセクシュアリティと性教育

思春期は、心理学的、感情的、社会的、文化的変化と同様に、身体的、ホルモンの発達の時期である。思春期の変遷の間、10代の若者は妊娠や性感染症など、多くの落とし穴を避けようとする。しかしながら、彼らはまた、他の年齢層よりも多くの何らかの矛盾するメッセージを受け取る。映画、音楽、広告、ソーシャル・メディアを通じた文化的な影響はセクシュアリティに関する魅力や興奮をもたらすが、ニュース、公共政策、学校でのメッセージ、親を通じて、性的相互作用に伴う危険や問題がたびたび伝えられる。したがって、米国文化のなかの若者は矛盾する世界のなかで自らの道を探さなければならない。人気のあるメディアは「いつも『はい』と言いなさい」と叫ぶ一方、多くの成人は「単に『いいえ』と言いなさい」と忠告する。大部分の成人は「ただ沈黙しなさい」と言う (Brown & Taverner, 2001)。この問題に対処するために、親、学校、教会、政治家のなかには禁欲を奨励するものもある。このことは、性的行動と相互作用、性感染症 (sexually transmitted infections, STIs)、避妊に関する教育のニーズが全く存在しないことを意味する。これによって、個人と家族がいろいろな方向に引っ張られる双極文化のなかで生きているようであり、セクシュアリティに関して教えることになると、時には綱渡りをしているように見える。

一般に、若者にセクシュアリティを教えるのに用いられる4つのアプローチ

があり、それらは禁欲に関して教える方法によって区別することができる。思春期の若者を対象とする性教育は、完全な性的自由を抑制し、性的衝動に対処する方法として、禁欲を促進する一方、それが思春期の若者の性では全ての性的感情、思考、相互作用の自制を意味するべきだとは主張してはいない。成人は、若者が早まって性的相互作用にかかわることを望んではいない。しかし、性的感情や表現の全体的節制や過剰なコントロールは、社会的相互作用の抑圧、否定、孤立の観点から、思春期の若者に現在および将来の問題を生じさせる可能性がある。したがって、禁欲が、避妊方法として、人間のセクシュアリティの完全な回避として、教えられているかどうかを検討されなければならない。

禁欲の議論と意味に、異なる年令の生徒を関与させるのは有効かもしれない。クラス全員か小グループに、禁欲を定義し、どのような行動が含まれるか特定させることができる。禁欲は、禁煙、飲酒、薬物、過食とどんなふうに似ているか、異なっているか。参加者は禁欲に関するさまざまな意見から、禁欲に同意しているかどうかを調査する（「強く反対する」から、「強く同意する」まで）。たとえば、「若者は、禁欲はジョークだと考える」、「私たちがすることは性的行動に教育的に何の影響も与えることができない」、「禁欲は全く性的接触をしないことを意味する」、「説教をしないで禁欲に関して教える方法がある」などである。これらの意見への応答から、いくつかの重要な対話を引き出すことができる。禁欲の正しい定義も見解もないが、それがどう教えられるかに関しては論争がある。うまくいけば、若者は自身の個人的な定義を開発し、親密なパートナーにそれを伝えることができる。これらの定義は、ジェンダー、年齢、親、宗教、文化、学校の性教育プログラムに影響を受ける可能性がある。それらのプログラムは、地方学区教育委員会、コミュニティ、州、そして・または連邦政府によって承認され、資金提供されている。

セクシュアリティは、善悪についての親、社会、政治的認知、宗教や個人の自由に関する人々の感情と密接に結びついているので、学校、家庭、文化のなかで激論を引き起こす恐れのある課題である。ほとんどの成人が、高圧的あるいは暴力的なセックス、HIV/AIDSなどの性感染症、思春期の若者の意図しない妊娠への深い憂慮を共有しているので、何が10代の若者にとって、健康で

「ない」かについて同意している (Collins, Alagiri, & Summers, 2002; Darling & Howard, 2009)。しかしながら、健康に関する認識は、「病気でないこと」から、「人生にセクシュアリティを統合し、そこから喜びを得、もし選択するならば生殖するための個人の自律と能力」にまで達する。親は、子どもが良い性生活を送ることを望んでいることが示されている。性生活において、子どもは身体に感謝し、適切な方法で愛や親密さを表現し、(必ずしもそれらに影響するというわけではないが) 性的感情を楽しみ、健康を増進できるだろう。言い換えれば、性的な喜びにはまた、性的相互作用のリスク、責任、結果、影響を理解する能力が含まれる (McGee, 2004)。

第3節 学校における性教育へのアプローチ

禁欲のみプログラム

「禁欲のみプログラム」は道徳的で安全な唯一のアプローチとして、全ての性的行動からの禁欲を強調する。その支持者は、思春期の若者が詳細な性的相互作用の詳細から保護され、有害な結果を知らされるべきであると信じている。さらに、節制を強く促し、禁欲の恩恵を促進するために情報が提供される。妊娠中絶についての議論は避けられている。一方、性感染症や HIV の予防は禁欲を続ける理由として促進されている (Collins et al., 2002)。これらのプログラムは、多くの10代の若者が性的に活発になる可能性を認識していないので、避妊やコンドームの使用に関する内容を含んでいない。したがって、親密な関係になる生徒は、より安全なセックスをする方法を知ることができないままである。「禁欲のみプログラム」や「結婚まで禁欲のみプログラム」のなかには、同性に惹かれること、障がい者の性的本質、多様で非伝統的な家族構成、妊娠のオプションなど、特定の議論を避けるものがある (Kempner, 2004; Kenny & Sternberg, 2003; SIECUS, n. d. a)。さらに、それらは不正確な記述を使ったり、恐怖、恥、罪悪感を吹き込んだりすることによって、若者の性的行動をコントロールするように設計されている。これらのプログラムのいくつかは以下のとおりである。

- HIV/AIDS の蔓延について不正確な情報を用いる（例：「エイズは皮膚接触によって感染することがある。」「HIV は汗や涙を介して移ることがある。」「どんな種類の性的活動も、ある人から別の人に性感染症を広げることができる。」）
- コンドームの使用を推奨しない（例：「コンドームは、複数の性的パートナーや早すぎる性行動に起因するかもしれない情緒的な問題から、人を保護することは決してできない。」）
- 中絶について偏った用語を用いる（例：「43 日めの胎児は『考える人』である。」「予測される中絶の影響には乳がんや不妊のリスクの増加が含まれる。」）
- 性行動の悪影響を含む（例：「婚前交渉の結果には、罪悪感、失望、心配、憂うつ、悲しみ、孤独、自尊心の喪失が含まれる。」）
- 医学的に不正確な情報が含まれたり、事実が歪められたりしている（例：「思春期の男女には、乳房組織に小さなしこりがあることがよくある。この状態は女性化乳房と呼ばれ、ホルモン変化の正常な徴候である。」（女性化乳房は、少年の乳房組織の一般的な増加を言う。）」母親からの 24 個の染色体と、父親からの 24 個の染色体が結合して、この新しい個人が生まれる。」（ヒト細胞には、各親からの 23 個の染色体がある。）」
- 実際にはジェンダー・ステレオタイプを促進している（例：「女子は、キスがいつか他のことにつながると知らせることができることを意識しておく必要がある。女子は、男子を助けるために最初にブレーキをかける必要があるかもしれない。」「男性が見ているので、女子は着るものに気をつける必要がある！ 女子はファッションのことを考えているかもしれないが、男子はセックスのことを考えている。そのため、女子には欲望を招くことのない控えめな服を着る責任がある。」）
- 生徒がクラスで繰り返して唱えるために、人の心を捕らえるスローガンをプログラムに組み込む（例：「正しいことをしなさい、指輪を待ちなさい」、「犬をかわいがりなさい、デートではなく」、または「セックスを先延ばししなさい、今は演じなさい、後にしなさい。」）（SIECUS, 2008, 2009; Waxman, 2004）。

あらゆる年代層の性教育者は、これらのメッセージを意識し、誤解を解き、ステレオタイプを取り除き、正確な情報の使用を促進できる必要がある。

結婚まで禁欲のみプログラム

「結婚まで禁欲のみプログラム」は、結婚前の全ての性的行動において禁欲を強調する一方、避妊や病気の予防法についての情報を少しも含まないことから、「禁欲のみプログラム」と同じである。それらは不正確な情報や恐怖の使用を含むかもしれない。しかしながら、また、結婚が、全ての性的行動を道徳的に許容できる唯一の文脈であるという明らかな点を指摘する。20年間以上もの間、連邦政府は「結婚まで禁欲のみプログラム」に何百万ドルも費やしている。これらのプログラムは、たいてい「包括的性教育」のコースに取って代わられたが、思春期、生殖の解剖学、性の健康など、人間のセクシュアリティに関する最も多くの基本的なトピックに関する情報さえ提供しなかった。また、一度も有効だと立証されたことがない (SIECUS, n. d. a)。

性的関係を持つのを結婚まで待ち、人生のパートナーに忠実であることは妥当だと信じているものもいる。しかし、それは多くの若者にとってはやや非現実的かもしれない。なぜなら、たとえあったとしても、人が人生において、〔性的関係を持った〕後に結婚する現代社会の状態を反映していないからである。そのうえ、結婚解消の頻度が高いために、人々は一生のうちに数人の性的パートナーを持つ可能性が非常に高い。人々が最初に結婚する年齢が20代後半に上昇する一方、最初に性交をする年齢はおよそ16歳にまで低下している。さらに、マイノリティの人々の数は少ないので、彼らの最初の性的パートナーも既婚者であったことが報告されている (AVERT, n.d.)。これらのプログラムはまた、ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、またはトランスジェンダー (LGBT) の関係を説明しない。一部の州ではLGBTの結婚が合法的な選択肢ではないかもしれない。

禁欲に基づくプログラムと禁欲プラスプログラム

「禁欲に基づくプログラム」は禁欲の恩恵を強調する。しかしながら、また、性交以外の性行動、避妊、より安全なセックス、病気の予防方法についての情報を含む。恐怖や恥に依存しないで、若者が性的関係を延期するために必要なスキルの開発をよく支援する。これらのプログラムはセクシュアリティの文脈とセクシュアリティに関わる意味を探究する。性的相互作用からの禁欲を促進する一方、思春期の若者が性的に活発になるかもしれないことを認めている。したがって、これらのプログラムには、コンドームの使用や、避妊、妊娠中絶、HIV/AIDSなどの性感染症についての議論が含まれる。「禁欲プラスプログラム」は強力な禁欲のメッセージを伝える一方、避妊とコンドームに関しても教育する (Advocates for Youth, 2001)。

包括的性教育プログラム

米国の親の大部分が、医学的に正確で、年齢的に適切で、禁欲と避妊の両方についての情報を含む「包括的性教育」を支持している。また、若者は望まない妊娠や性感染症から自分自身を守る方法に関する情報を与えられるべきだと考えている (SIECUS, 2007)。これらのプログラムは、幼稚園から始まり、第12学年 (高校3年) 以上まで続く。しかしながら、性教育は、身体の各部の名称を知ることや自尊心を高めることに関連する内容を持っており、時には保育園のプログラムに組み込まれることもある。包括的性教育プログラムにおける、年齢に適した情報には、性的関係で責任を果たすために対人能力を発達させる機会と同様に、性感染症・HIVや妊娠防止など、セクシュアリティに関する広範な話題が含まれる。セクシュアリティが生活における自然で健康な部分と見なされ、禁欲はより安全な選択として奨励される。コミュニティに存在するセクシュアリティに関する多様な考え方を尊重する。包括的性教育の支持者は、若者は、人生に関する十分な情報に基づいた責任ある決定のために、必要な知識を持つべきだと考えている。また、80%以上の米国人は、包括的性教育プログラムが禁欲を強調するだけでなく、コンドームの使用と避妊を奨励しており、学校で教えられるべきだと考えている (Kirby, 2007)。さらに、若

者は、もし自分たちが何かするべきだと考える場合、性的相互作用を遅らせるのを支援する協議やコミュニケーション・スキルと同様に、個人的なパワーに関して学ぶべきである。

包括的性教育プログラム・ガイドラインは次の4つの重要な目標に基づいている。(1) セクシュアリティに関する正確な「情報」の提供、(2) 若者が性的「態度」について問い、調べ、評価して、自分自身の「価値観」や「洞察」を発達させる機会の提供、(3) 若者の「恋愛関係」や「対人能力」発達の支援、(4) 若者の禁欲への取り組み、早すぎる性交への関与圧力に対する抵抗、避妊やその他の性の健康に関する対策の使用の奨励など、性的関係に関する「責任」を果たすのを支援することである (SIECUS, 2004)。ガイドラインは多元的社会におけるほとんどのコミュニティの考え方を反映する価値観に基づいている (Box 9.1 参照)。どの価値観が、学生、親、コミュニティにとって、より重要か。

「包括的性教育ガイドライン」は「人間発達」、「恋愛関係」、「対人能力」、「性的行動」、「性の健康」、「社会と文化」という6つの重要な概念を教えることに基づいている (SIECUS, 2004)。これらの概念は、年齢に適した材料で、4つの年齢段階のそれぞれで教えられる。年齢段階は次のとおりである。

レベル1：幼年期中期、5-8歳。小学校低学年

レベル2：思春期前、9-12歳。小学校高学年

レベル3：思春期前期、12-15歳。中等学校・中学校

レベル4：思春期、15-18歳。高等学校

概念が発達上、適切に設計されていることを例証するために、「人間発達」の重要な概念と「生殖の解剖学と生理学」のサブ概念を検討することができる。各レベルの例は次のとおりである。

レベル1：身体各部分には正しい名称と機能がある。

レベル2：思春期の間、内外の性的・生殖的器官は成人期に備えて成熟する。

レベル3：性的応答システムは生殖システムとは異なる。

レベル4：ホルモンは、成長、発達、性的・生殖的機能に影響を与える。

別の説明は、「恋愛関係」の重要概念とサブ概念「家族」から来ているだろう。各レベルの例は次のとおりである。

レベル1：さまざまな種類の家族がある。

レベル2：家族員には権利と責任がある。

レベル3：親と子の関係は、たいてい、年を取るにつれて変化する。

レベル4：家族のひとつの目的は、メンバーが最も豊かな可能性を伸ばすのを支援することである。

「包括的性教育ガイドライン (*Guidelines for Comprehensive Sexuality Education*)」には、その他の重要な考えと詳細な内容が見られる (SIECUS, 2004)。

Box 9.1 包括的性教育の価値

「包括的性教育ガイドライン (*Guidelines for Comprehensive Sexuality Education*)」(SIECUS, 2004) は、セクシュアリティ、若者、家族の役割に関する多くの価値観に基づいている。これらの価値観は米国中の多くのコミュニティの価値観を反映する一方、普遍的ではない。親、教育者、コミュニティのメンバーは、実行されるプログラムが、自分たちのコミュニティの考え方、文化、社会規範に確実に一致するように、これらの価値観を再検討する必要があるだろう。ガイドラインに固有の価値観は次のとおりである。

- 全ての人には威厳と自尊心がある。
- 全ての子どもは愛され、保護されるべきである。
- 若者は、自分たちの文化的遺産のコンテキストのなかで、自分たちをユニークで価値ある個人とみなすべきである。
- セクシュアリティは生活の自然で健康な部分である。全ての人々は性的である。
- セクシュアリティには身体的、倫理的、社会的、霊的、心理学的、情緒

的側面が含まれる。個人はさまざまな方法で自分のセクシュアリティを表現できる。

- 親は子どもの最初の性教育者であるべきである。家族は子どもにセクシュアリティについての最初の教育を提供するべきである。
- 家族はセクシュアリティに関する価値観を子どもと共有するべきである。
- 多元的社会では、人々は、コミュニティに存在するセクシュアリティに関する価値観と考え方の多様性を、尊重し受け入れるべきである。
- 性的関係は、敬意に基づいて相互的であるべきであり、決して高圧的であったり、搾取的であったりすべきでない。
- 全ての人は責任ある性的選択をする権利と義務がある。
- 子どもが、親や信頼できる成人と、セクシュアリティについて議論できるとき、個人、家族、社会は利益を得る。
- 若者は成人になることの一部としてセクシュアリティに関する価値観を発達させる。
- 若者は性的成熟を達成する自然なプロセスとして性について調べる。性的行動への早すぎる関与はリスクを引き起こす。
- 性交を慎むのは、妊娠や性感染症・HIV 予防の最も効果的な方法である。
- 性的関係にある若者は、健康管理サービス情報にアクセスする必要がある。

資料出所：SIECUS. (2004). *Guidelines for comprehensive sexuality education: Kindergarten through 12th grade*, 3rd ed. New York: SIECUS. Retrieved from http://www.siecus.org/_data/global/images/guidelines.pdf

プログラムの有効性

最近の全米調査によると、「禁欲のみプログラム」を受けた生徒は、受けなかった生徒に比べて、性的関係の節制、最初の性交および過去 12 か月以上に

における保護されていない性関係、性的パートナーの数、最初の性交の年齢に関して「同じ」だったことがわかった。そのうえ、「禁欲のみプログラム」の生徒は、性感染症の潜在的健康リスクの知識があまりなく、コンドームが性感染症予防に有効であるとはあまり回答せず、コンドームが性感染症予防に決して有効でないと回答する傾向があった (Trenholm et al., 2007)。禁欲に関する友人のサポートには保護的な利益があるかもしれないが、これら思春期の若者は年齢が上がると、禁欲と性に関する認識や行動を変化させるので、このサポートを継続するのは難しいだろう。「禁欲のみプログラム」の影響に関する研究が始まったとき、ほとんど全ての若者には、禁欲をサポートする態度と行動をもつ友人がいた。しかし、4年後には、友人の40%だけが禁欲をサポートしていた。生徒が結婚までセックスをしないことを誓うプログラムに関して、大部分は誓約にこだわらなかった。事実、ある研究では誓約の82%が、誓約を立ててから5年後には維持されていなかった。性行動に関する誓約を立てた者と立てなかった者に違いが見られなかっただけでなく、誓約にサインした人は妊娠や性感染症から自分を保護しない傾向があった (Rosenbaum, 2009)。

「包括的性教育プログラム」についての評価によって、どんなプログラムも性的関係の開始を急がせないし、頻度を増加させないことが明らかになった。包括的性教育プログラムは、両方のジェンダー、全ての主要な民族グループ、性的経験を持つ10代の若者と持たない10代の若者、異なった設定やコミュニティに対して有効であった。さらに、いくつかのプログラムでは、その肯定的な影響が数年間にわたって続いた (Kirby, 2007)。ほとんど全ての包括的性教育プログラムが、性行動に影響を与えるひとつ以上の要素に肯定的な影響を与えた。たとえば、妊娠と性感染症のリスクと結果に関する知識の向上、性的関係やコンドーム・避妊の使用に関する価値観と態度、仲間規範 (peer norm) の認知、望まないセックスに対して「ノー」という能力に関する自信、コンドームの使用や避妊の主張、親や成人とのコミュニケーションである。別のコミュニティで研究が繰り返された場合にも、同様の明白な効果があった。しかしながら、プログラムが短縮されたり、(コンドームの使用など) 特定の内容が取り除かれたりした場合、もともとの肯定的な結果は得られなかった。

性教育に関するよく知られている論争

性教育に関するいくつかのよく知られている論争がある。米国は先進国のなかで10代の妊娠や性感染症の割合が最も高い。したがって、連邦政府は10年以上の間、「禁欲のみ性教育プログラム」に助成金を提供した。しかしながら、データから「禁欲のみ性教育プログラム」には妊娠、出産の割合と正の相関があることが示された (Stangler-Hall & Hall, 2011)。2009年に助成金の期限が切れたとき、同年の後半に「研究とエビデンスに基づく」10代の妊娠防止プログラムのための法案が可決された。「禁欲のみ性教育プログラム」が有効でなかったという証拠が積み重ねられていたにもかかわらず、助成金は2010年に復活し、認可された (Stangler-Hall & Hall, 2011; Trenholm et al., 2007)。個々の州は、これらのプログラムの正確さと有効性に関する懸念の増大から、禁欲のみ教育のための連邦政府の助成金を拒否している (Raymond et al., 2008)。

性教育を義務づける連邦法も政策もないので、どのタイプの性教育や助成金の選択肢が10代の妊娠と性感染症の割合を低下させるのに最もうまく機能するかは、個々の州で決めることができる。州によっては「義務」がある。全ての学区で、通常、地方レベルで実施するように提案されたカリキュラムを用いて、性教育やエイズ教育を生徒に提供するという「要件」である (Guttmacher Institute, 2013)。学校で性教育と性感染症／HIV教育の両方を提供するよう義務づけている州もあれば、性感染症／HIV教育だけを義務づけている州や、どちらも義務づけていない州もある。禁欲のみ教育プログラムを義務づけている州もあれば、妊娠と病気予防に伴う避妊情報を含むことを義務づけている州もある。他の州では「推薦」がある。「推薦」は性教育や性感染症／HIV／エイズ教育を「促進する」州議会や州教育局による規定である。しかし、必ずしもそれをやる必要はない。カリキュラムが提案されているかもしれないが、これらのプログラムの設計と実行は地方の学校区次第である。したがって、全ての生徒、親、教育者、有権者にとって、「禁欲」という用語を使っているプログラムの特性を完全に理解することが重要である。それらは、「禁欲のみ」、「結婚まで禁欲のみ」、「禁欲に基づく」、「禁欲プラス」、性交を遅らせるより安全なセックスのために「禁欲が望ましい」(例：包括的性教育)を意味しているか。

性教育のアプローチの類似性と違いを生徒が理解するのを支援するために、仮想学区教育委員会の前に、ディベート活動が実施されるかもしれない。学区で提供される人間の性教育プログラムへの4つのアプローチに関するクラス討論に参加できることを生徒に知らせなさい。この共同学習体験は、学校での性教育プログラム作成の課題を学ぶプロセスに生徒を参加させる。全ての生徒がポジション・ステートメント（意見表明書）を課題として準備し、学区教育委員会に対して、4つのアプローチを提示する発表者とアイデアを共有する一方、実際の発表者は発表するために何らかの追加的考えの提供を受けるだろう（詳細は Box 9.2 参照）。

Box 9.2 仮想学区教育委員会ディベート活動

討論課題を作成し、それを4つの異なった色の紙に印刷して生徒に配布しなさい。これら4つの色は「包括的性教育プログラム」、「禁欲に基づくプログラム」、「禁欲のみプログラム」、「結婚まで禁欲のみプログラム」を表している。生徒個人にプログラムを選択させるのではなく、グループのメンバーの1人にプログラムのタイプをランダムに選ばせ、ディベートで支持させなさい。こうして、各グループは対等の代表権を持つ。このアプローチに対する自分たち自身の個人的好みや見解は、クラスの残りのメンバーにはわからない。

生徒は、自分たちで性教育プログラムのタイプに関するポジション・ステートメントを用意する。なんらかの読み物が割り当てられるかもしれない。また、割り当てられたアプローチを擁護するために、他の情報源を探させてもよい。この課題に関する、考えられる構成要素は次のとおりである。

- ポジション・ステートメントを擁護するために情報を収集している間、この割り当てられた人間の性教育アプローチに関して、それをを用いるための主要な議論を含むステートメントを用意しなさい。
- 自分自身で別のアプローチをひとつ選び、特定しなさい。この2番目のアプローチの良い点と悪い点は何か。あなたはディベートの間、このア

アプローチの提案者にどんな質問をするだろうか。

- 割り当てられたアプローチの主要な擁護者は誰か、また主要な論拠は何か。
- 自分のアプローチは避妊の話題にどう対処するか。
- 自分のポジション・ステートメントに用いた参考文献を含めなさい。

ディベートの前に、情報を組織化し共有する時間をグループに与えなさい。各グループは、だれがグループの主要な発表者になるか、だれが学区教育委員になるかを定める。

ディベートの日には、それぞれのアプローチのメンバーは、適切な情報を発表者と共有するために数分間集まるだろう。インストラクターが学校の監督者として、ディベートを促進する一方、クラス外の生徒が学区教育委員会に加わり、議長を頼まれるかもしれない。学区教育委員会が発表者やグループに質問したあとで、この事例を擁護するために、各グループの発表者には5分が与えられる。

4つのグループ全てがそれぞれ発表したのち、各グループは他のグループに、そのアプローチについて、いくつか質問することができる。4つのグループの全てが、質問し答える機会を持っている。

プレゼンテーションと質問に続いて、学区教育委員会がこの学区で採用するアプローチについて投票する一方、教師はクラスでのディベート活動を収束させる。ディベートの結果は変化しうるし、学区教育委員会のメンバーの個々の意見、そして／または、アプローチに関する発表者の説得力に基づいていることに注意しなさい。

生徒は、このディベート活動への参加をとおして、それぞれのアプローチの特性を学ぶだけでなく、親、公務員、ニュースメディアの消費者、有権者として、この知識を用いることができる。

第4節 セクシュアリティ・モデル：性教育の内容を組織化する

性教育コースで扱われる内容は、生徒のニーズや年齢，設定，授業の必要性，学生の年齢，設定，授業時間の長さによって変化する。「セクシュアリティ・モデル (Model of Sexuality)」(図9.1 参照) は、授業やプログラム内容の組織化を支援するのに用いることができ、授業の特色に合うように調整できる。このモデルには、認知的、心理学的、生理学的プロセスの時間的変化、ジェンダー、文化的影響の相互作用が含まれる。

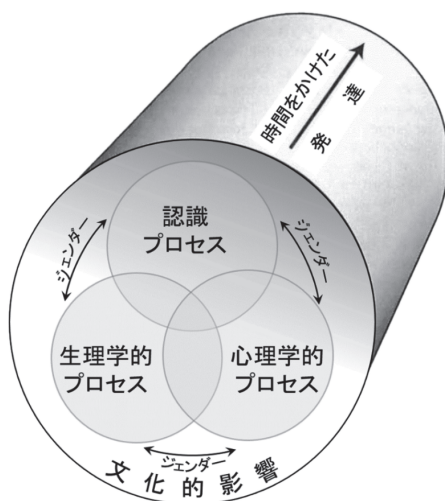


図9.1 セクシュアリティ・モデル

時間をかけた発達

「時間」はセクシュアリティに関連していて、「歴史的時間」と「個人的時間」という2つの平行する「側面」を持っている。米国の文化、人間関係、愛・ジェンダーの変化・性の生理学の理解に関する科学には大きな歴史的变化があった。Box 9.3はこの100年間の変化を示している。米国文化のなかでは、次のようなことが見られた。法律や判決の進化、LGBT問題の開示の増加、体外受精、妊娠中絶を容易にするRU-486〔経口妊娠中絶薬、ミフェブ

リストン], HIV 保有者に対して非常に有効な抗レトロウイルス療法 (highly active antiretroviral therapy, HAART) などの技術的・科学的な進歩である。さらに、恋愛関係における携帯電話, ソーシャル・メディア, 「セクスティング (sexting, 携帯電話による露骨な性的メッセージや画像の発信)», 「トゥワーキング (twerking, 激しく腰を動かし, 低いしゃがんだ姿勢をとって, 性的に挑発的なやり方でダンスすること)」は, 米国の文化的環境に浸透している。これらの変化は, 特定の文化的変容が, 自分たちにとって発達の興味深く, 生活に影響を及ぼす可能性がある期間のあいだに, ライフサイクルのなかで変化している人々の年齢層に影響を与える。

Box 9.3 セクシュアリティの歴史における重大なできごとに関する年表

- 1846 最初の横隔膜避妊具のために米国特許が発行された。
- 1905 『性理論に関する3つのエッセイ (*Three Essays on the Theory of Sexuality*)』が出版され, いくつかの疑問の余地のある考え方が提供された (Sigmund Freud)。
- 1914 「米国公衆衛生協会 (*American Social Hygiene Association*)」が性教育, 性病予防, 売春防止への専門的関心によって形成された。
- 1916 マーガレット・サンガー (Margaret Sanger) が, ブルックリンで最初の産児制限クリニックを開所して逮捕・投獄された。
- 1923 ジョン・ケロッグ (John Kellogg) が, 「バトルクリーク・サニタリウム (*Battle Creek Sanitarium*)」の院長になり, 性的感情を防止し, 自慰をやめさせるために, コーンフレークのような簡単な食事を促進した。
- 1948 5,300人の男性にインタビューした研究『人間における男性の性行為 (*Sexual Behaviors in the Human Male*)』が出版された (Kinsey, Pomeroy, & Martin) [邦訳, 永井潜, 安藤画一, コスモポリタン社, 1950]。

- イリノイ州ロックアイランドのオーガスタナ大学で初めてのパンティ狩り〔大学の男子学生が女子学生の寮からパンティを盗んで戦利品とする行事、特に1950年代に流行〕。
- 1950 膣の壁の性感帯の存在がエルンスト・グレーフェンベルク (Ernst Grafenberg) によって示唆され、後にG-スポットとして知られるようになった。
- 1952 デンマークの、ヨーロッパ系アメリカ人ジョージ・ヨーゲンセン (George Jorgensen) による最初の性別適合手術の調査。
- ルシール・ボール (Lucille Ball), テレビで妊娠している女性を演じた最初の人物が、「妊娠」という用語を使うことを禁じられた。
- 1953 5,940人の女性にインタビューした研究『人間女性における性行動 (*Sexual Behavior in the Human Female*)』が出版された (Kinsey, Pomeroy, & Martin)〔邦訳、朝山新一ら、コスモポリタン社、1954、1955〕。
- ヒュー・ヘフナー (Hugh Hefner) が『プレイボーイ (*Playboy*)』の創刊号を発行した (最初のプレイボーイ・クラブは1960年に開かれた)。
- 1956 エルビス・プレスリー (Elvis Presley) がエド・サリバン・ショーに出演したが、ウエストから上だけを見せた。
- 1957 「性に関する科学的研究学会 (*Society for the Scientific Study of Sexuality*, SSSS)」が設立された。
- 1960 経口避妊薬 (ピル) が米国食品医薬品局 (FDA) によって承認された。
- ビキニが、1946年にヨーロッパで始まった後に、米国に紹介された。
- 1962 『シングル・ガール：独身女性の甘い生活 (*Sex and the Single Girl*)』が出版されて、ベストセラーになった (Helen Gurley Brown)。〔邦訳、矢野徹、早川書房、1963〕。
- 1963 『新しい女性の創造 (*Feminine Mystique*)』が出版された (ベティ・フリーダン, Betty Friedan)〔邦訳、三浦富美子、大和書房、1965〕。

- 1964 全米性情報教育会議 (Sex Information and Education Council of the United States, SIECUS) が設立された。
- 1965 『グリズウォルド対コネチカット裁判 (*Griswold v. Connecticut*)』。最高裁判所は、プライバシーの権利、結婚している女性の避妊の権利を確立した。
- 1966 性的応答の生理学に関する観察的研究『人間の性反応：マスターズ報告 (*Human Sexual Response*)』が出版された (Masters & Johnson)。〔邦訳、謝国権、ロバート・Y. 竜岡、池田書店、1966〕。
- 全米女性機構 (National Organization for Women, NOW) が設立された。
- 1967 米国性教育者・セラピスト協会 (American Association of Sexuality Educators and Therapists, AASECT) が設立された。
- 1968 ニューヨーク市ブロードウェイで『ヘアー (*Hair*)』(舞台上でヌードがある) が開幕。
- 1970 タイトル X: 家族計画プログラム (Family Planning Program) が成立した。
- 1972 『The Joy of Sex: ふたりだけの愛のよろこび (*The Joy of Sex*)』が出版され、ニューヨーク・タイムズ・ベストセラー・リストに8年間掲載、歴史上最も長い (Alex Comfort) 〔邦訳、安田一郎、青木日出夫、双葉社、1975〕。
- タイトル IX が教育における性の平等を確立する。
- 『オープン・マリッジ: 新しい結婚生活 (*Open Marriage*)』が出版された (O'Neill & O'Neill) 〔邦訳、坂根巖夫、徳田喜三郎、河出書房新社、1975〕。
- 1973 ロウ (Roe) 対ウェイド (Wade) 裁判。最高裁判所が、女性が妊娠中絶を選ぶ権利を確立する〔7対2で合憲とする画期的判決が下されたが、その後も国論を二分〕。
- 『からだ・私たち自身 (*Our Bodies, Our Selves*)』が出版された (Boston Women's Health Book Collective) 〔邦訳、日本語版翻訳グループ、松香堂書店、1988; ほかに『女のからだ: 性と愛の真実』秋山陽子、桑原和代、山田美津子、合同出版、1974〕。

- 1974 米国精神医学会が同性愛を精神病のリストから除去した。
- 1978 最初の試験管ベビー，ルイズ・ブラウン誕生。
- 1979 モラル・マジョリティ（Moral Majority）が設立された〔宗教的政治組織，キリスト教根本主義のもと，伝統的な価値・個人道徳を重視。New Right の中心勢力〕。
- ヘルペスについての大きさな反応が1970年代後半のメディアによるキャンペーンで始まり，1980年代前半にピークに達した。
- 1981 サンフランシスコでゲイの男性の間で説明のつかない感染症の最初の症例が見つかった。
- 1982 レーガン政権が，避妊をした10代の若者について親に通知する「密告規則」を提案した。
- 1983 『グッド・セックス：ドクター・ルースの電話相談（*Dr. Ruth's Guide to Good Sex*）』が出版され，他の26冊の本が続いた（Ruth Westheimer）〔邦訳，池上千寿子，根岸悦子，勁草書房，1988〕。
- 1984 エイズを引き起こすウイルスの特定する研究が爆発的に行われた。
- 1986 公衆衛生局長官C. エバレットクープ（C. Everett Koop）が，思春期前と思春期の若者に対して，エイズ教育を含む性教育を行うことを公的に支持した。
- 1990 全米統計代表サンプル調査に基づく『最新キンゼイ・リポート（*The Kinsey Institute New Report on Sex*）』が出版された（Reinisch & Beasley）〔邦訳，小曾戸明子，宮原忍，小学館，1991〕。
- タイトルX：健康サービス法および思春期の若者家族生活法が，性教育の内容に思春期の若者に対する第一の性的価値観として禁欲を促進することを命じ，性教育の連邦助成金を受ける機関はそれを義務づけられた。
- 1993 最初の女性用コンドームが食品医薬品局（FDA）によって承認された。
- 1994 *Social Organization of Sexuality* が出版された。これは，3,432人へのインタビューに基づく全米健康・社会生活調査の報告であった（Lauman, Gagnon, Michael, & Michaels）。

- 10代の若者向け雑誌『セブンティーン (Seventeen)』が、最初に、用語「オーラル・セックス」を使用し、「マスターベーションは人生の正常な部分である」ことを示した。
- 米国公衆衛生局長官ジョスリン・エルダーズ (Jocelyn Elders) が、マスターベーションに肯定的なコメントをしたために解任された。
- 1996 社会保障法タイトルV・セクション510b、「結婚まで禁欲のみプログラム」のための州交付金が通過した。
- 「婚姻防衛法 (Defense of Marriage Act, DOMA)」が制定された。同法は、連邦政府が同性間結婚を認めることを禁じ、各州がその他の州で行われた同性婚の認知を拒否できるようにするものである。
- 1997 エレン・デジュネレス (Ellen DeGeneres) は自分がレズビアンであることをメディアに「カムアウト (公表)」した。
- 1998 42州で学校でのエイズ教育が命じられる。23州とコロンビア特別区が公立学校での性教育プログラムを命じる。
- インポテンスの経口治療薬・バイアグラがFDAによって承認された。
- マシュー・シェパード (Matthew Shepard) がゲイであるためにワイオミングで撲殺された。
- 『ウィルとグレース (Will and Grace)』がテレビで初めて放映された。主役の男性の役柄はゲイであった。
- 1999 ヒト・パピローマ・ウイルスが子宮頸癌の主要な原因であることがわかった。
- 経口妊娠中絶薬 RU-486 が米国で利用可能になった。
- 2001 公衆衛生局長官デヴィッド・サッチャー (David Satcher) が「性の健康と責任ある性行動を促進する活動の呼びかけ (*Call to Action to Promote Sexual Health and Responsible Sexual Behavior*)」を行った。それは、包括的性教育プログラムの重要性を強調した。
- 2002 「レイプ・ドラッグ」が大学のキャンパスで流行した。
- 新種のホルモンによる避妊法 (パッチ, リング, 毎月の注射) が市場に参入した。

- 2003 「ローレンス対テキサス (*Lawrence v. Texas*)」がテキサス州のソドミー法を無効にした。全ての州で同性の性行動が合法的になった。
- 2004 「若者リスク調査 (Youth Risk Surveys)」が、1991年から1997年までに、思春期の若者のリスクを犯す行動は顕著に減少したが、その後、それは持続しなかったと結論づけた。
- International Encyclopedia of Sexuality* が出版された (Francoeur & Noonan)。
- 2つの新しい男性のインポテンツ治療薬シアリス (Cialis) とレビトラ (Levitra) がFDAで承認された。
- マサチューセッツ州は同性結婚を合法化した最初の州になった。
- 2006 「下院委員会」は、禁欲のみプログラムの大部分が誤った紛らわしい情報を提供したと断言した。
- 2011 軍におけるゲイに対する「尋ねるな、言うな」政策が終わった (1993年に始まった)。
- 2013 米国最高裁判所は、連邦政府に同性結婚の認知を禁じた「婚姻防衛法 (DOMA)」を無効にした。
-

老化や発達によってわかるので、「個人的時間」は変化のもうひとつの要素である。性教育コースの参加者は、特定の個人的年令で、自分たちに影響する問題に、より多くの興味を持っている。例えば、大学の性教育クラスの学生は、高齢者の性的活動、変化、関心には興味を持たないかもしれない。逆もまた同様である。しかしながら、家に子どもがいる親は、ひとり親であり、成人であることに関係する自分自身の性的課題に興味があるばかりではなく、子どもがその年齢段階で直面している発達上の課題にも興味がある。個人や家族はライフサイクルを通じて変化するので、これらの性的関心の領域は、時間を通じて変化し、発展するだろう。

認識プロセス

私たちはセクシュアリティの認識という側面について、それほど頻繁に話しあうわけではない。それにもかかわらず、脳は一般に最も大きい性的器官として知覚されている (Berman, n. d.)。私たちが行うさまざまな決定に関連するので、認識プロセスは、知覚の思考プロセス、記憶、判断、推論をとおして、知識を獲得し、理解することに関係する。私たちは、いつ、だれと、どんな状況で、性的関係や相互作用を始めるかに関する性的行動について決定する。また、セクシャル・ハラスメントなどの道徳的倫理的な決定を行うとき、思考プロセスは推論に影響する可能性がある。セクシャル・ハラスメントは、さまざまな外観、多くの異なった環境で現れる可能性がある。しかし、非常に一般的で、広く存在し、教育の場や仕事の場で起こる可能性がある。事実、最近の研究では、調査された中高生の48%が、2010-2011学年のあいだに少なくとも1回のセクシャル・ハラスメントを受け、女子の大部分がその標的にされ、危害を加えられたと報告した (AAUW, 2011)。

認識的側面では、熟考するためにセクシュアリティに関する倫理的決定が重要である。人生の選択、特にセクシュアリティに関する選択をするとき、自分の利益が道徳的要求とどのように相互作用するか。言い換えれば、「自分にとって何が良いか」対「全てにとって何が良いか」。倫理理論には2つの部分がある。第一の部分では、基本的に価値のある要素、または決定の背後にある理論的根拠を扱う。正直、公正、自由、寛容、他者を支援することなどのなんらかの普遍的価値観に加えて、愛、喜び、自尊感情に関連する個人的価値観がある。価値観は（自分自身の価値観の優先順位を持っている個人にとっての）意思決定の基礎として機能するだけでなく、特定の行動がその人の価値観や価値観の優先順位と衝突する場合、罪悪感を生む可能性もある。第二の部分では、他者にできることには何らかの限界があるので、道徳、または他者をどう扱うかに対処する。自分たちを導くいくつかの一般的ルールがある一方、どんなルールも適用されない特別な状況がある。これらの例では、どの倫理原則が関連しているかを決定するために各状況を分析し評価しなければならない。他者がかかわるさまざまな性的で道徳的な課題に適用できる原則のいくつかは次のとおりである。

- 「強制されないという原則」：人は自発的に同意しない場合、性的表現に関わることを強制されるべきではない。
- 「偽りが無いという原則」：人は、偽りに基づく性的表現に誘惑されるべきではない。
- 「目的としての人々の取り扱いという原則」：人は手段としてだけ取り扱われるべきではない。人は目的として取り扱われるべきである。性的領域では、このことは、他者が決して自分の性的満足的手段としてだけ見なされるべきではないことを意味する。
- 「考え方の尊重という原則」：人は他者の性的価値観や考え方を尊重しなければならない。これは、ある人が、別の人に対して自分の性的価値観や考え方に合わない方法で行動することに圧力をかけるべきでないということの意味する。これは、ある人が、別の人に対して考え方が誤っていることを合理的に説得しようとするのを妨げない(Darling & Mabe, 1989)。

同性婚、禁欲、教師と生徒の間の性的関係、避妊の使用や非使用などの、さまざまな性的課題を分析するのに、これらの4つの原則を用いることは啓発的だろう。これらの原則は適切か。人間の性を越えて他の領域に対しても適切か。拒絶されるべき原則、あるいは追加されるべき原則があるか。

心理学的プロセス

性的親密さについて考えることは、恐怖、心配、罪悪感、嫉妬、困惑などの感情と同様に、愛、喜び、喜びを含むさまざまな情緒的反応を起こすかもしれない。セックスに対する情緒的反応は主に一生を通じて学習される。「社会学習理論」は、学習が人・環境・行動の間の動的な相互作用であることを特定していて、社会的強化と罰が性的行動に関する認識、観察、知覚、考え方、信念、態度に影響を与えることを示している (Chibucos et al., 2005; Gibson, 2004)。私たちは、子どものとき、どのように他者と相互作用するべきかに関するモデルとして兄弟や親を用いる。もっとも、後になると、社会的規範的行動のモデルや指標として、教師、友達、ソーシャル・メディアを組み込む。

米国文化において、男や女の人生にかなりの心理学的な影響を与える3つの単語は、「私は・あなたを・愛している」である。しかし、単語「愛」はしばしば誤解されている。愛は、意識的な感情的あるいは合理的な精神的力なしにわき起こる強い感情または気持ちであり、人が特定の方法で行動するのを動機づける。そのうえ、それはたいていペアがお互いに深く関わる基礎を提供する。ある人にとって、愛は感情的な生存のための不可欠の要素であり、性的に関係する前提条件かもしれない。愛についての最もよく知られている説明のひとつは、「愛の三角形理論 (Triangular Theory of Love)」である。これは、三角形の3つの角、「親密さ」、「情熱」、「関与」という3つの重要な要素から成る (Sternberg, 1986)。愛のある関係は、なんらかのひとつ、あるいは程度の異なる2つまたは3つ全部の組み合わせから構成される可能性がある。愛は喜びや痛みをもたらす同時に、3つの要素のどれかが弱かったり、欠けていたりする場合、結果として幸福でないと感じる人々もいる。男性と女性の両方が、互いへの愛を表現するかもしれないが、異なった方法でそうするかもしれない。愛の経験や意味は時間とともに変化することを認識するとともに、男女の感情、関係的プロセス、コミュニケーション方法を理解するのは、互いの個人的関係や性的相互作用を促進するために不可欠である。

生理学的プロセス

生物学的変化と説明はセクシュアリティのひとつの側面にすぎない。というのは、セクシュアリティはまた、成長・発達、生殖機能、性的目覚めや応答にかかわるからである。セックスが性交以上のものであることを記憶にとどめていることは重要である。こうして、具体的プログラムの内容に含めることができる適切で広範な性的行動がある。これらの話題のいくつかを不愉快に感じるかもしれない教育者もおり、人間の生殖についての議論だけをやるかもしれない。しかしながら、セクシュアリティの生理学的プロセスは、思春期や生殖よりはるかに広い。性教育者は、これらの不安定な感情を緩和しようとして、教える内容の基礎になるように何らかの独学をし、研究成果を取り込む必要があるだろう。 *Journal of Sex Research*, *Archives of Sexual Behavior*, *Journal*

*of Sex and Marital Therapy*のような雑誌は、さらに研究に基づく知識を求めようとする願望を支援する良い情報源である。そのうえ、人が性の生理学に関して教える事項は、年齢、発達段階、コミュニティの文化によって、異なるだろう。例えば、思春期の若者のための生理学的カリキュラムは、高齢者に提供されるものとははるかに異なるだろう。「幼稚園から第12学年までの包括的性教育ガイドライン」で提案された内容を調べることに加えて、セクシュアリティに関するNCFRの「家族生活教育枠組み (Family Life Education Framework)」(Appendix A 参照) [ダーリン, キャシディ著, 倉元, 黒川監訳『家族生活教育：人の一生と家族』(第3版), 2019] を調べなさい。「枠組み」は、家族システムの文脈のなかで、幼年期、思春期、成年期、高齢期の間、取り上げられるさまざまな話題を示している (Darling & Howard, 2009)。

ジェンダー

セクシュアリティに関わる認知的、心理学的、生理学的プロセスは、全てが、ジェンダー、すなわち男性あるいは女性であることにともなう心理学的、社会文化的特性と相互に作用している。最も明確なジェンダー差は、解剖学的なものである。しかしながら、男女の胎児の性器は、性器が分化し始める第12週ごろまで区別がつかない。私たちはたいてい固定観念に基づくジェンダー差に焦点を合わせるが、研究によれば、これらの考え方のいくつかは間違っているか、変化している一方、いくつかは正しいことが示されている (Fisher, 2012)。さらに、ジェンダー差が見られるとき、違いの大きさは年齢や文化などの要素によって異なる。

一般に、全ての年齢の男性が特に幼年期と青春の間、自慰をしている可能性がある。したがって、ほとんどの男性は、最初は自己刺激によって性的喜びを経験する。一方、女性は別の人と共に最初の性的な喜びを経験するかもしれない。過去の研究では、男性がより低い年齢で性的活動を開始し、より頻繁に性的行動をすることが示されていたが、最近の研究ではこれらの違いが変化していることが示されている。男性は生涯を通じて反応性が次第に下がっていくけれども、女性には更年期にいくつかの目に見える身体的機能や潤滑さの変化が

もたらされる。性的活動の頻度は男女両方で低下していくが、高齢になってもまだ性的活動をし続ける (Schick et al., 2010)。性的態度に関して、男性は、セックスに対する自分たちの態度に関して、より寛大で、カジュアルなセックスをより多く受け入れていて、セックスがお互いに信頼しあった関係のなかで起こる必要はないと考えている。それに比べ、女性はセクシュアリティに対して否定的な情緒的反応をする傾向がある。それは「セックス恐怖症」(性的な合図への否定応答)として知られている (Fisher, 2012)。

これらの違いは、生物学、社会的役割、特に文化的影響に基づくさまざまな理由から生じる可能性がある。というのは、多くの文化には、いまだになんらかの形のダブルスタンダードや生物学と文化の相互作用が存在しているからである (Delamater & Hyde, 1998)。文化的、歴史的・時間枠の変化のために、最近の研究によれば、著しい違いは見られなくなっている。ジェンダー役割への期待は文化的に定義されるばかりではなく、時期や歴史的・時間にも依存する。残念なことに、研究の多くが男性が女性に比べて性的発達のピークにある大学生に対して行われており、ジェンダー差を誇張している可能性がある (Fisher, 2012)。

文化的影響

性的学習のかなりの部分は、文化的環境によって定義される。どんな文化背景の中においても、人はさまざまな性的スクリプト (台本) を学ぶ。それらは、劇や映画の脚本に似ている。「性的スクリプト理論 (Sexual script theory)」は、パートナーとの性的相互作用は、友だちや家族のメンバーの行動をとおして社会化されるだけでなく、本、テレビ番組、ウェブサイト、ソーシャル・メディアなどのマスメディアの影響をとおして社会化されることが示されている。言い換えれば、性的行動は文化的に望ましい規範的結果によって学ばれる。それは、セックスやセクシュアリティとは何か、特定の性的状況をどのように認識するか、そのなかでどのように行動するかを定義している。さらに、性的スクリプトは、一生をかけて徐々に学ばれ、社会的影響によって常に変化している。

スクリプトは、人々がしていることや、しようとしていることに関して持つ

ている考えである (Gagnon, 1990; Gagnon & Simon, 1973)。「文化的スクリプト」が文化の集合的な意味に基づく一方、「個人間のスクリプト」は特定の社会的コンテキストのなかの個人による社会的相互作用に関連し、「精神内部のスクリプト」は個人によって経験された願望の精神活動と管理にかかわる (Simon & Gagnon, 1984)。スクリプトには、性的行動の「だれが」、「なにを」、「いつ」、「どこで」、「なぜ」が含まれる。性的スクリプトの「だれが」の部分には、だれとセックスするか、しないか、また年齢、ジェンダー、結婚歴、民族、社会的徳性、血縁者に関する制約が含まれるかもしれない。「なにを」は、異性間の性交に対する多くの文化における承認されたガイドラインのように、道徳的、非道徳的、正常、非正常のガイドラインを提供する。しかし、レイプ、結婚レイプ、知人によるレイプに対する文化的・法的な非難が起こっている。「いつ」は時間や年齢に関連するセックスのタイミングに言及している。性的相互作用をする時間は、子どもが寝ていたり、あるいは誰も家やアパートにいなかったりする私的な時間だと認識されている一方、年齢は、通常、思春期あるいは成年期が性的関係を開始するのに適切な時だと言われる。「どこ」は、性的活動が行われる場所に焦点を合わせていて、しばしばプライバシーにかかわる。米国文化において性的関係のための伝統的な場所は、寝室かホテルのベッドである。「なぜ」では、愛しているか、自分自身や他の誰かを喜ばせたいなどの、性的活動に対する動機、説明、正当化に言及する。

多くの性的なスクリプトが伝統的役割を果たす男女を描いてきた。しかし、最近のスクリプトは、両方のパートナーがカップルの性的経験に対する所有の感覚を持つこと、オープンに正直に自分たちの気持ちについて話し合うこと、自分たち自身のニーズを満たす一方、お互いの願望、需要、および願望を満たすことを学ぶ必要性などに進化している (Hammond & Cheney, 2009)。セックスの「だれが」、「なにを」、「いつ」、「どこで」、「なぜ」は、性的行動をする自分たちの価値観と一致している必要がある。スクリプトの興味深い例は、婦人科医への女性の訪問である。彼女の性器が露出されたり、デジタルに透視されたりする一方、必ずしもそれが起こるというわけではない。というのは、人が医師を訪問するという文化的スクリプトは設定 (どこで)、訪問の時間の限

定 (いつ), 医師や看護師の関与 (だれが), 活動 (なにを), 理由 (なぜ) を定義するからである。

性的考え方と対人関係の文化化〔所属する集団の文化を学習して, その構成員となること〕や社会化〔社会の規範や価値観を学び, 社会における自らの位置を確立すること〕が, 性的自己形成における文化の役割を知覚する能力を制限するので, セクシュアリティの文化的局面は簡単には明らかにならない。しかしながら, 約 60 か国の研究者からの思慮深い観察は, 性生活における文化の役割について, いくつかの異文化的視点を提供した (Francoeur & Noonan, 2004b)。キスは, ほとんどの西洋文化で最も一般的な親密な活動で, 文化的スクリプトを例示するのによく用いられる (Tieffer, 2004)。いくつかの文化では, キスが性交に付随する一方, 他の文化ではそうではない。また, パートナーの唇と舌をしゃぶるなどのキス, 同時に鼻と口にキスすること, 恋人の鼻に舌を入れること, パートナーの顔に唇をつけたり吸ったりすることなど, 興味深い多様性がある。日本では, 性交が普通だが, キスは性的に興奮させるものとして知覚される。西洋文化では, キスは, 挨拶や別れ, 愛情のしるし, 宗教的あるいは儀式的なシンボル, または高い地位にある人への服従である可能性がある。したがって, 米国でセクシュアリティに関して教えるとき, クラスのなかの多様な学生の間文化的スクリプトのさまざまな解釈があるかもしれないことを意識する必要がある。文化は人の性的行動, 気持ち, 他者との相互作用に影響を及ぼす。

モデルの適用

性教育カリキュラム設計への「セクシュアリティ・モデル」の組み込みは, 設定, 教育プログラムの長さ, 生徒のジェンダーと年齢, 文化的背景によって異なる。「プロセス」の重なり合う3つの円は, 同じ大きさと同じ認識の重要性があるものとして描かれる一方, 実際には, 人生のさまざまな時点でその大きさと重要性が異なるだろう。言い換えれば, 「生理学的プロセス」はさまざまな種類の性的相互作用を探究し始めている個人には関心と重要性が高いだろう。「認識プロセス」は自分たちの価値観を侵害する可能性がある活動や相互

作用を促進するピアグループの若者にはより顕著だろう。また、愛と親交にかかわる「心理学的プロセス」はライフサイクルの間に変化するだろう。さらに、内容はオーバーラップしている。例えば、愛は、非常に熱を帯びた感情と見なされるかもしれないが、ある人々にとっては生理学的相互作用や認知プロセスにおいて非常に重要な要素であるかもしれない。また、愛の感情には、オキシトシン、アドレナリン、ヴァソプレッシンなど、私たちが魅力を感じる人を見るときに放出される可能性のある脳内化学物質も含まれている（Fisher, 2004）。プログラムを設計するときには、生徒の発達段階に合わせて、モデルの円柱の1片を概念的に切り取りなさい。人生のその時点で学ぶために、最も重要なことは何か。セクシュアリティの内容を教えるのに利用できる時間によって、生徒がセクシュアリティの広い視点とコースの概観を獲得するための知覚ツールとして、モデルを組み込むことができる一方、モデルのいくつかの要素にだけ焦点を合わせることもできるかもしれない。

第5節 性教育の学習戦略

セクシュアリティについて教えることは、計画的で、思慮深く、しかし自然発生的である必要がある。セクシュアリティの話題に関する文化的、個人的な感度に違いがあるので、生徒にとってたやすく安全な環境をつくることのできる学習戦略の計画は重要である。さらに、生徒が自分自身の価値観をはっきりさせ、教師が敏感に、生徒が自分の本音を表明したくない限り、生徒にそれを強要しない方法で考えていることを意識するようになることは有用である。生徒が「拒否するスキル」を練習できる学習体験を提供することは意味がある。そのため、もし生徒が「ノー」と言う必要がある状況だということに自ら気づく場合、自信をもってすぐにそうすることができる。これらは計画された活動だが、そのような状況が教室やメディアで起こるかどうかに関係なく、教えるのによい機会に警告することが重要である。性的問題はメディアやその周囲の環境のなかで絶え間なく進化し目立つようになっているので、それらをクラス討論に迅速に組み込むことは重要である。

安全な環境づくり

セクシュアリティに関して教えるとき、安全な環境は特に重要である。人はセクシュアリティに関して非常に多くの問題や懸念を持っているので、安全に関する感覚は重要である。参加のための「授業ガイドライン (Class Guidelines)」の提供や、「1分間スクーム (One-minute Squirm)」, 「授業契約 (Class Contract)」, 「クエスチョン・ボックス (Question Box)」といった授業活動を組み込むなど、安全な環境をつくるいくつかの方法がある。

授業ガイドライン

生徒が安心できるようにするために、授業ガイドラインについて話し合い、参加者に電子的に、またはプリントで提供することができる。これらのガイドラインを組み込む程度は、コースの性質とその長さ (1時間, 1週間, 数週間, 1学期) によって異なる。これらのガイドラインには、次のものがある。

- 全員参加を期待する：「もし全員が参加すると、授業はうまくいくだろう。」「しかしながら、開放的にそうすることを快適だと感じるときにだけ、参加し共有できる。」
- クラス討論ガイドライン：
 - どんな質問もしてよい：「授業中や授業後に質問することを恐れなくてください。」
 - 社会的に許容できる用語を使いなさい：「いくつかの用語は、他の人にとって、不快な場合がある。」
 - さまざまな価値観とものの見方を尊重しなさい：「意見を異にするのはかまわないが、だれかをからかってはいけない。」
 - 「酷評」はしてはいけない：「だれにも、否定的ラベルをつけてはいけない。」
 - 全ての人に、感情があることを覚えていなさい：「話題について、また他の人が私たちについて言うことに対して、感情を持っている。」
 - 話さなくてもよい：「全ての人に、質問や活動を『パスする』権利がある。だれでも、共有したいと思っていないことを言わなくてもよい。」

- セッションは秘密である：「他の人が言ったことを授業の外で話してはいけない。」
- 議論の間、本当の名前を使わない：「私の友人」、「私の知人」、または「私が見ただれか」などの表現を使いなさい。
- 教師と学生はセクシュアリティの多様な考え方を尊重するべきである。
- 意見を言う前に、聴く：「偏見のない心を持ちなさい。どんな意見も酷評してはいけない。」
- どの意見も正しかったり間違っていたりするわけではないことを覚えておく：「全員に自分の意見を言う権利が与えられる。」
- 私たちには皆、意見を変える権利がある：「話題に関して、より多くの知識を得たとき、私たちは考えを変えるかもしれない。これは成長の証である。」
- いくつかの話題はその授業の内容を超えている：「性教育は広範な話題を取り扱う。しかしながら、それらを全部取り扱うことはできないだろう。」

1 分間スクラム (One-minute squirm squirm)

性教育者は、しばしば、活動を設計したり、課題を作成したりする。あるいは、望んでいるよりも多くの個人的考え方や行動を生徒が明らかにすることが予想されるので、生徒が恥ずかしいと思う話題について議論することもある。これは、年齢、人前で話すことに対する安心感、宗教信念、性的関与と経験のレベルによるだろう。この関心を生徒と共有できると、経験から学んだ効果がより長続きするかもしれない。したがって、数分間で、初期の性的経験のいくつかを共有するために、さまざまな生徒に呼びかけるだろうということを授業の最初のセッションで述べることができる。次に、続いて何らかの一般的授業情報について言及しなさい。1, 2分以内に、この話題に戻って、個人情報を探めているのではなく、「非常に個人的なので一般に共有することはできないことを伝えるように頼まれた場合に、感じるであろうことを経験する」ことを望ん

でいると伝えなさい。さまざまな生徒が自分の初期の性的経験を共有するよう頼まれたとき、どれだけの生徒が「（恥ずかしさに）身をよじったか」尋ねなさい。どれだけの生徒が自分の名前が呼ばれないよう望んでいたか。もしそうするよう頼まれた場合、どれだけの生徒が拒否しただろうか、またそれはなぜか。次に、生徒がこの授業でそれをする必要はないことを再び断言しなさい。生徒の安堵のため息はすぐに明らかになる。この経験は、もし学習体験が生徒の心地よい場所で作られない場合、生徒がどのように感じるかについて、将来あるいは現在の教師が考えるのを支援するように設計されている。

授業契約

授業ガイドラインについて議論するとき、生徒はセクシュアリティの授業環境は安全だと「聞く」かもしれない。また、「1分間スカム」活動を取り入れることによって、自分たちのウェルビーイングに関する教師の関心を「感じる」かもしれない。しかしながら、授業契約を組み込めば、生徒は、安全についての感覚に対する教師の懸念を聞き理解していたという文書を読んで物理的に署名することができる。したがって、以下のような契約書を配布しなさい。そうすれば生徒は安全の概念が提示された同じ日に文書を完成させ署名する。この契約は誰かが彼らの価値観や信念に反したことをやらせたと後で言うときに、講師へのセーフティ・ネットを提供するだけでなく、教室が本当に人間のセクシュアリティを学ぶ安全な環境であるという安心感を促進する。

人間のセクシュアリティに関する教育：授業開示文書

私（生徒の**名前**）は、この授業が性的行動についての明示的な読み物や討論を含むことを（講師の**名前**）から説明されたことをここに認めます。さらに、私はこれらの教育的活動のいずれかに参加するという自分の決定が自発的なものであり、自分の個人的な価値観に矛盾する活動を拒否する権利を持っており、もし私が拒否するときには、代替の課題が私のために設計されることを理解します。さらに、私は私が上述のように権利を行使しても罰せられないことを理解しています。

署名 _____ 日付 _____

クエスチョン・ボックス

「クエスチョン・ボックス」の使用は、長い間、生徒が質問できる安全な環境を提供する一般的な戦略である。生徒のなかには質問することになんら問題がない者がいる一方、答えがわからなかったり、自分の質問が個人的過ぎることが明らかになるかもしれないとして不快に感じたり、困惑したりする者もあるかもしれない。したがって、同じ紙をクラス全員に配布しなさい。生徒に匿名でセックス・セクシュアリティに関する質問を書くように指示するか、または質問がない場合には、好きな歌に関することなど、他の何かを書くように指示しなさい。それから、クエスチョン・ボックスを回して、書いたものを入れさせなさい。全ての生徒が紙を箱に入れるよう命じられるので、だれも、どの質問がどの生徒のものであるかわからないだろう。講師のなかにはすぐに応答しようとする者もいるかもしれないが、授業のあとにこれらの質問を読んで、次の授業で取り扱う内容に従って、それらを整理することを勧めたい。多くの質問が似ているかもしれないので、全てに対して1回で答えなさい。また、出てくる可能性のある関連要素を含めなさい。クエスチョン・ボックスはコースの途中か、最後に組み込まれるべきかもしれない。なぜなら、もしあまりに早

く組み込まれると、多くの質問が後で計画されている内容に関連するだろうし、そのために回答が不必要に延期されるかもしれない。答えがわからない場合、この遅れは回答を準備する時間を与える。クラスの人数と質問の関連性によっては、全ての質問に答えることができないかもしれないし、選ぶことができないかもしれない。時には、生徒の質問が、個人的過ぎるか、または授業の文脈から外れているので、授業で回答するのは不適當かもしれない。それらは、医師やセックス・セラピストに依頼するほうがよいだろう。なかには、単に教師の反応を見るために言語道断な質問を提出する生徒もいるかもしれない。新しい質問と懸案事項に注意を払うために、授業中のいろいろな時点でクエスチョン・ボックスを組み入れることができる。

価値観の明確化

セクシュアリティにおける基本的な課題は、個人的価値システムと絡み合っている。性的行動は、ニーズや衝動以上に、自己、友だち、親、人生に対する個人の価値観や態度を反映している。人間の価値観と価値観が階層構造になっていることについての理解は、関係性、性的活動、性教育の確立に重要である。価値観に関して教えることはできるが、さまざまな内省的エクササイズや、討論のきっかけの導入は、生徒が自分たちの価値観をより批判的に検討するのを可能にする。したがってまた、潜在的に、自己認識を高め、個人の思考を促進し、批判的自己分析を促進できる。教師が促進する単一の価値観や価値観の階層構造はないけれども、教師は、生徒に自分自身の価値観を特定させ、それらを維持するかどうか、それに従ってどのように行動するかを決定させようとする。価値観の明確化を支援するエクササイズの2つの例には、「認識の階層構造 (*Hierarchy of Perceptions*)」と「恋愛関係における価値観 (*Values in Relationships*)」がある。

認識の階層構造

生徒に配布するために、用語、活動、状況のリストを作りなさい。これらのリストに関する識別情報を与えないで、生徒にこれらの事項を「最も嫌い」な

ものから「最も好き」なものまで順位を付けさせなさい。これらの事項の提案は、参加者の年齢、設定、関心に応じて、以下のリストや他のリストのいずれかに追加することができる。

- 禁欲
- ひとり親
- 同性婚
- コンドームなしのセックス
- 私の身体
- 女性のマスターベーション
- 男性のマスターベーション
- オーラル・セックス
- () 歳の男性の童貞
- () 歳の女性の処女
- 結婚しないセックス
- 高齢者のセックス
- セクスティング
- トゥワーキング
- 教師と生徒の性関係
- 親友は独身で妊娠している。

生徒がこれらの項目を順位付けした後、紙を折りたたませ、教師に提出させなさい。教師は生徒にランダムにそれらを配る。生徒は、自分自身の紙ではなくて、配布された紙（個人）を代弁して話をする。討論では、最上位と最下位の項目、それらの項目に関連している価値観が何かを判断しなさい。これらの項目のいくつかは、参加者に対して肯定的または否定的な反応をもたらす可能性があることに注意しなさい。

さらなる議論のために、いくつかの項目に注目するとよい。生徒に、ペアの項目に記載されているような男女のマスターベーションや、童貞や処女の年齢に対する回答を比較させなさい。あるジェンダーの順位が高い場合、この状況

が男性（または女性）に当てはまる場合は、生徒に手を挙げてもらうようにしなさい。こうして、生徒は匿名になっている自分自身の回答をクラスの他の生徒の文化と比較する視点を獲得することができる。次に、対になった回答がジェンダーに基づいてどれだけ離れているかを話し合いなさい。つまり、この行動に関連する価値観に関係するジェンダーの課題はあるか。「親友は独身で妊娠している」という最後の項目もまた興味深い。この問題に関する自分たちの気持ちについて話し合いなさい。多くの人が若い女性に関して心配をし、支援しようとするかもしれない。一方、妊娠していることが彼女の将来の計画に悪影響を及ぼす可能性があるため、他の人はその女性を気の毒だと感じるかもしれない。それから「年齢と状況」が違いをもたらすかどうか尋ねなさい。言い換えれば、女性が、30代半ばの家庭生活教育の教授で、子どもを望んでいて体外受精（IVF）を選択した場合、それは違いをもたらすだろうか。この活動は、価値観を明確にし、ジェンダーとコンテキストを検討し、価値観の階層構造を強調するのに役立つ。教師は、この活動にはさまざまな価値観が示されていることを示唆できる。同様に、コースの内容を扱うときに現れるさまざまな価値観と価値観の階層構造があることも示唆できる。正しい答えはない。生徒が自分自身について、そして他の人から学ぶときには、まさに考えるべきことがあるということである。

恋愛関係における価値観

この活動は、恋愛関係の課題に関する個人的な価値観を特定し、明確にし、ことばで表現するのに役立つ。さらに、判断や価値観の根底にある仮定のいくつかを検討し、次に他の人々の認識や価値観の階層構造と比較することができる（この活動については Box 9.4 参照）。

Box 9.4 恋愛関係における価値観の違い

参加者が検討するために以下の名前を書きなさい。文化的背景によって、適宜名前を変えなさい（例：ジョン、ホセ、ジョハン）。

- ジョン …ベスの婚約者
- ベス …ジョンの婚約者
- カール …ベスのクラスメイト
- アンナ …ベスの親友
- エドワード…ベスの新しい知り合い

物語を読み、その後、1（最も好ましい人）から、5（最も好ましくない人）まで、これら5人に順位を付けるように頼むことを説明しなさい。どんな正しい答えもない。ただ、意見があるだけである。

以下の文章を2回読みなさい。

ジョンとベスは婚約しているが、ジョンは勤務で遠くアラスカに配属された。ベスはまだ学校に通っていて、カールと同じクラスである。ベスとカールは友達ちになっていて、一緒に寝ている。ベスは、カールと性交することに関して正しいと感じていないと判断し、止めなければならないと彼に言い、そうする。

いくらかの時間が経過し、カールは、アラスカまでドライブするとベスに言う。ベスはカールに、ジョンに会うために連れて行くよう頼む。カールは「OK、あなたが私と一緒に寝るなら」と言う。

ベスはどうすればよいかわからず、親友のアンナに尋ねる。アンナは、「あなたが一番良いと思うことをしなさい」と言う。そこで、ベスはカールと寝ることにした。

その間、ジョンはアラスカで、近くに配属された看護師と日常的にデートしていた。アラスカに着いたら、ベスはカールと自分の関係についてジョンに話すことを余儀なくされていると感じる。ジョンはベスを信頼できないと言って婚約を解消した。

ベスは家に帰って、エドワードに会う。彼女は動揺し、全てをエドワードに話す。エドワードは、彼女に彼と一緒に住もうと言う。

参加者が順位付けをすませたら、4から6人の小グループを作りなさい。これらの小グループのなかで、生徒は順位付けに関わる課題について話し合い、グループで合意に達する。これは個々の順位の平均ではないが、グループの順位付けを確立するために必要な要素の慎重な分析である。

小グループが話し合っている間に、縦軸に物語の登場人物の名前、横軸にグループの番号をリストした碁盤の目をボード上に作成しなさい。一部のグループが合意に達していない場合でも、授業に注目させなさい。各グループのメンバーに順位を報告してもらい、なぜ彼らがそうした方法で順位を付けたのか、あるいは合意に達するのに問題があるかを説明させなさい。碁盤の目には、各物語の登場人物に対して幅広い順位があるだろう。

以下のように、出現した課題について議論しなさい。

- 恋愛関係における誠実さの役割
- 感情的な関与と性交の関係
- 性交が適切な場合
- 婚約の意味
- 「一緒に寝る」という意味
- 個人的な関係における利己的利用 (exploitation)
- 友だちの役割
- ダブルスタンダード

議論の別のポイントは、登場人物の名前がもう片方のジェンダーに変更された場合、何が違うかを含む。言い換えれば、ベスがボブ、ジョンがダイアンなどであれば、順位はどうなるだろうか。さらに、この価値観を明確化する活動は、メディアの最近の課題 (例：クリントン＝ルインスキーの場合、あるいは他の最近の性的論争) にどのように適用されるだろうか。この討論を結論づけるために、物語の登場人物の順位の変化に注意を促しなさい。

私たちは皆、価値観を持っているが、ものごとを異なるように評価する。したがって、これらのさまざまな価値観の階層構造は、授業の残りの部分でも、授業の内容を異なる方法で評価することを示している。

資料出所：Morrison, E., & Price, M. (1974). *Values in sexuality: A new approach to sex education*. New York: Hart Publishing Company.

拒否するスキル

全ての年代の個人にとって重要なスキルは「ノー」と言う方法を学ぶことである。どの年齢でも仲間の圧力に抵抗するのは簡単でないが、現代の若者の間では特に難しい。この活動を、どんな種類の状況が問題が多いか、どんな要素がかかわるか（例：アルコール・ドラッグ、仲間の数、グループのなかでの地位）を生徒に質問することから、始めなさい。ミニ講義は、アサーティブネス（および非アサーティブネス）対攻撃性の話題に対処するのに役立つかもしれない。しかしながら、学生は、穏やかで積極的な態度で拒否したり、抵抗したりするスキルを実行するために、なんらかの「練習」が必要かもしれない。そうして、選択すれば、人との友情を維持できるようになる。授業では何らかのロールプレイのシナリオを構造化できるが、グループの前では不愉快に感じる者もいるかもしれない。したがって、クラスの大きさによって、2つから4つのグループに分割してもよい。集団としての応答のために「圧力線（pressure line）」を順番に各グループに与えなさい。次に、生徒に1～5までの番号を書いたカードを使って答えさせなさい。どのグループが最も多くのポイントを獲得しているかがわかるように、誰かに得点を記録させなさい。この活動は、生徒が友だちや仲間との関係を維持しながら、「ノー」と言う練習を支援する。この活動の終わりに、これらの発言に応答するとき、どれくらい満足だったかを議論するかもしれない。活動が進むにつれて、応答はより容易になったか。アルコールの消費は性的遭遇の一部であることが多いので、アルコールまたは他の物質がどのように性的相互作用や、「圧力線」に対する他者の応答にどのように影響するだろうか。

生徒が聞いた圧力線を提供するように頼む方がよいけれども、いくつかのセクシュアリティ圧力線は次のとおりである。

- あなたが私を愛しているならば、あなたは私とセックスするだろう。
- 私は何もしたくない。ただあなたの隣に横たわりたいと思う。
- さあ、来なさい。私はあなたにとって今までで最高の相手になるだろう。
- 何か飲むものを持ちなさい。それで、あなたはさらにリラックスするだろう。
- セックスは私たちの関係をより強くするのに役立つ。
- 「はい」と言わないのであれば、そう言う人を見つかるだろう。
- 私は他の誰とも一緒にでなかったのだから、あなたがエイズにかかってしまう可能性はまったくない。
- 私は手許にコンドームを持っていない。
- コンドームをつけるために性行動を停止すると、勃起が萎えるだろう。
- コンドームは病気の人のためのものである。私は病気に見えるか。

同僚の娘と母親が提案された拒否スキルで対応した。娘が友だちと一緒にいて、自分の価値観に反する活動や別のできごとのために移動することが提案された場合、彼女は、まず、母親に電話して、遅くまで外出したり他の場所に移ったりすることに対する許可を得なければならないと言うだろう。彼女は母親にそれを説明して、「どうぞ、どうぞ（ ）してもいいでしょう」と言うだろう。「どうぞ」を2回言うのは、母親が「いいえ」という暗号で、娘はそうしたくない状況から解放される可能性がある。もちろん、これは、友だちの圧力状況の全てにおいてうまく機能するわけではないし、この若い女性が友だちに直接「ノー」と言うのを支援することはできないかもしれない。しかし、それはこの母親と娘にとって有効だった。若い女性は価値観や価値観の階層構造を考え、その階層構造に基づいて行動した。彼女は友だちとの誠実な友情を重んじるかもしれないが、この場合は彼女にとって優先順位が低かったのである。この状況を逃れることに加えて、彼女が選択できる他の行動は、代替活動の提案、それが良い考えでない理由を伝えることである。それらには、ただ「いいえ」と言うか、「ありがとう、しかし結構です」と言うことが含まれる。

FAMILY LIFE EDUCATION :
WORKING WITH FAMILIES ACROSS THE LIFESPAN
(THIRD EDITION) edited by Carol A. Darling and Dawn Cassidy
Copyright © 2014 by Carol A. Darling and Dawn Cassidy
Third published 2014 by Waveland Press, Inc.

This translation is published by permission of Waveland Press, Inc.,
Long Grove, Illinois, U. S. A.